

痛み学

入門講座

9



もりもと・まさひろ 平成元年、大阪医科大学大学院（麻酔科学専攻）修了。同大講師を経て、8年に近畿大学医学部麻酔科講師。22年から現職。医学博士。日本ペインクリニック学会理事。

世界保健機関（WHO）は、生活に支障をきたす主な病気の20

の1つとして「片頭痛」を挙げている。片頭痛と人の付き合いの歴史は古く、傑出した人物の精神状態と生み出した作品との関係を精神医学、心理学的な立場から研究する「病跡学」を紐解くと、芥川龍之介、樋口一葉、さらには進化論のダーウィ

ンや精神分析の創始者フロイトと枚挙にいとまがない。現在も多くの人がこの頭痛に悩まされており、わが国の患者数は約840万人と推定される。

女性に多く（男性の3倍以上）、ほとんどが30歳までに症状をみるが、幼児での発症も稀ではない。幼児の片頭痛は腹痛として、小児では朝に頭痛を訴えることから「不登校では」と勘違いされることも少なくない

片頭痛

片頭痛発作は、三叉神経（第5番目の脳神経、主として顔面の知覚を伝えている）が枝を出している血管が拡張することで起こる。ここではセロトニン（神経情報を伝達する物質）の作用によって血管が収縮し、その反動で血管が拡張して血管の周りに炎症を起こすことが原因となる。

さまざまなストレスが発作の



寝過ぎと赤ワインには注意して

引き金となるが、これはストレスによって血小板が固まりやすくなり、血小板からセロトニンが放出されることによる。このセロトニンによってもたらされる「閃輝暗点」（きらきらとした光が見える）、視野異常などの「前兆」が片頭痛の特徴なのだ。これらを伴わないタイプもある。

ズキズキと一定の間隔で起こる

拍動性の痛み（締めつけられるような痛みのこともある）が頭の片側（左右が変化すること、両側も稀ではない）に4〜5時間続くが、毎日ではなく週に2〜3回、あるいは1カ月に数回の割合で起こる。発作中には吐き気や嘔吐を伴ったり、便

を感じる」と呼ばれる異常をうことがある。この場合は、に触れるだけで痛くなるので介だ。

生活環境の変化なども誘因なり、睡眠不足よりも寝過ぎときに起こりやすい。また、物やアルコールの影響も大きい。チーズやチョコレート、ルコール（特に赤ワイン）などが発作を引き起こす可能性があることは有名だ。一方で、適量カフェイン（発作の前にコーヒーなどを2〜3杯、過量摂取逆効果）を摂ると効果的である予防には、抗うつ薬のamiリブチリン、抗てんかん薬の

ルプロ酸、呉茱萸湯を用いる発作時には、とにもかくにもリブタン系薬物（セロトニン受容体に特異的に作用する）投与なのだが、効果をみるまでに1時間以上要するのが難点はある。（近畿大学医学部麻酔科教